

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕 入	800,000	受 取 手 形	450,000
			支 払 手 形	200,000
			買 掛 金	150,000
2	当 座 預 金	300,000	普 通 預 金	300,000
3	当 座 預 金	50,000	前 受 金	20,000
			仮 受 金	30,000
4	通 信 費	6,000	当 座 預 金	11,000
	消 耗 品 費	4,000		
	雑 費	1,000		
5	買 掛 金	30,000	前 払 金	30,000

・解説

1. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【裏書手形に関する仕訳】【約束手形に関する仕訳】【掛け仕入に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【裏書手形に関する仕訳】

問題文に「代金のうち ￥ 450,000 については、柴田商店振り出し、佐々商店受け取りの約束手形を裏書譲渡」とあるので、本店が所有している受取手形を前田商店に譲渡する仕訳をきります。

★解答①

(借) 仕入 450,000 / (貸) 受取手形 450,000

【約束手形に関する仕訳】

問題文に「 ￥ 200,000 については、前田商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払い」とあるので、200,000 円については支払手形勘定で処理します。

★解答②

(借) 仕入 200,000 / (貸) 支払手形 200,000

【掛け仕入に関する仕訳】

残額の 150,000 円については、通常の掛け仕入なので特に問題ないと思います。

★解答③

(借) 仕入 150,000 / (貸) 買掛金 150,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

2. 預金の預け替えに関する問題です。

本問は、お金の流れが「普通預金→当座預金」なのか「普通預金→現金→当座預金」なのか明示されていないので、理論的にはどちらの仕訳でも正解ですが、本問の場合、問題文の勘定科目に現金勘定がないので、「普通預金→当座預金」であると判断して仕訳を切ります。

取引自体は普通預金を当座預金に振り替えるだけなので簡単です。なお、問題文の「同時に、借越限度額を ¥ 400,000 とする当座借越契約も結んだ」という一文は**ダミーデータ**なので、仕訳を切るさいに考慮する必要はありません。

預金の預け替えに関する問題は、第 141 回の間 2や第 144 回の間 2でも出題されています。

3. 仮受金・前受金に関する問題です。

仮受金と前受金は「お金を受け取ったときに計上する」点は同じですが、その性質（どんなお金か？）によって正しく使い分ける必要があります。

- ・ 仮受金 … **内容が不明**のお金を受け取った場合に仮に計上する勘定
- ・ 前受金 … **商品売買に先立って**お金を受け取った場合に計上する勘定

仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。なお、商品売買に先立って受け取るお金には「内金」と「手付金」の2種類がありますが、受験簿記では両者を区別して押さえる必要はありません。どちらも受け取ったら前受金で処理します。

本問は、問題文に「**¥ 20,000 については注文品の内金である**」とあり、振り込まれたお金が注文品の内金と分かっているので、**前受金**で処理します。

残りの 30,000 円については「**残額については原因不明のため、現在、同店に対して問い合わせ中である**」とあり、振り込まれたお金が何のためのものか判明していないので、**仮受金**で処理します。

仮受金と前受金に関する問題は、第 101 回の間 1や第 109 回の間 5、第 116 回の間 3、第 125 回の間 3、第 127 回の間 4、第 132 回の間 5、第 137 回の間 5などでも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 小口現金に関する問題です。

小口現金の仕訳は、【支払いに関する仕訳】と【補給に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【支払いに関する仕訳】

小口現金から支払った経費を計上します。仕訳自体は簡単なので特に問題ないと思います。

★解答仕訳①

(借) 通信費 6,000 / (貸) 小口現金 11,000
(借) 消耗品費 4,000
(借) 雑費 1,000

【補給に関する仕訳】

問題文に「当店では定額資金前渡法（インプレストシステム）により、小口現金係から毎週金曜日に1週間の支払報告を受け、これに基づいて資金を補給している」とあるので、支払額合計 11,000 円と同額の小切手を振り出して小口現金を補給します。

★解答仕訳②

(借) 小口現金 11,000 / (貸) 当座預金 11,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

なお、本問は問題文に列挙されている勘定科目に「小口現金」がないので、借方と貸方の小口現金勘定は相殺しません。

小口現金に関する問題は、第 103 回の問 2や第 105 回の問 3、第 113 回の問 5、第 121 回の問 4、第 126 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。いずれの問題もほとんど同じ形式で出題されています。

5. 訂正仕訳に関する問題です。

訂正仕訳に関しては以下の流れで機械的に処理することが出来るので覚えてください。

- ① 間違って切ってしまった仕訳を書き出す
- ② ①の逆仕訳を書き出す
- ③ 正しい仕訳を書き出す
- ④ ②と③の仕訳をまとめる

それでは、本問の仕訳を当てはめて確認してみましょう。

問題文に「かねて仕入先安藤商店から商品 ¥ 400,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 300,000 については安藤商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払い、残額については全額掛けとして処理していた」とあるので、まずは間違って切ってしまった仕訳を考えましょう。

☆① 間違って切ってしまった仕訳を書き出す

(借) 仕 入 400,000 / (貸) 支払手形 300,000
(貸) 買 掛 金 100,000

次に「①の逆仕訳」を考えますが、これは単純に貸借を逆にするだけなので簡単です。

☆② ①の逆仕訳を書き出す

(借) 支払手形 300,000 / (貸) 仕入 400,000
(借) 買掛金 100,000

さらにその次に正しい仕訳を考えますが、買掛金の一部（30,000 円）を前払金に置き換えるだけなので特に問題ないと思います。そして最後に②と③の仕訳をまとめます。

☆③ 正しい仕訳を書きだす

(借) 仕入 400,000 / (貸) 支払手形 300,000
(貸) 買掛金 70,000
(貸) 前払金 30,000

★④ ②と③の仕訳をまとめる

~~(借) 支払手形 300,000 / (貸) 仕入 400,000~~
(借) 買掛金 100,000
30,000
~~(借) 仕入 400,000 / (貸) 支払手形 300,000~~
~~(貸) 買掛金 70,000~~
(貸) 前払金 30,000

訂正仕訳は順番通りに、**機械的に処理するのが一番間違いが少ない**ですし、第1問以外の訂正仕訳の処理でも使えるので、上記のやり方を覚えてください。

訂正仕訳に関する問題は、第115回の間2や第134回の間5でも出題されているので、あわせてご確認ください。